

2026年7月のてがたんは当日受付にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回9月のてがたんは8月8日(土)で、テーマは「土の中の古代アート」です。ぜひご参加ください。市民スタッフのみなさま、次回の下見は8月2日(日)です。

7月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館2階でお話→鳥の博物館植栽→山階鳥類研究所→鳥の博物館
- 観察日時と天気：2026年7月11日(土) 10:00~12:00 晴れ
- 参加人数：10名(大人8名、子ども2名)
- 市民スタッフ：3名(石原直子、伊東茂子、北村章子、小泉伸夫、弘實さと子、古澤 紀元、松田由美子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：1名(望月みずき)

観察した生き物の記録

下見で見られたものも含む。

【鳥類】ハト科：キジバト／タカ科：トビ／キツツキ科：コゲラ／カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ムクドリ科：ムクドリ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ／アトリ科：カワラヒワ／ホオジロ科：ホオジロ 家禽や外来種：ドバト(ハト科)

【昆虫】トンボ目：コシアキトンボ／カマキリ目：オオカマキリ／ナナフシ目：ナナフシモドキ／カメムシ目：アオバハゴロモ、チュウゴクアミガサハゴロモ、ホシハラビロヘリカメムシ／チョウ目：イラガ、ヤマトシジミ、ジャコウアゲハ、アオスジアゲハ、アカボシゴマダラ／コウチュウ目：ヒメアカホシテントウ、キイロテントウ、キマダラミヤマカミキリ、クロバヒゲナガハムシ

【クモ類】ジョロウグモ、コガタコガネグモ

【草の花】ウマノスズクサ科：ウマノスズクサ／イネ科：エノコログサ、／マメ科：クズ／カタバミ科：ムラサキカタバミ／トウダイグサ科：コニシキソウ／コミカンソウ科：ナガエコミカンソウ／サギゴケ科：トキワハゼ／クマツヅラ科：クマツヅラ／キク科：オニタビラコ

【観察した葉】ドクダミ科：ドクダミ／ヤマノイモ科：オニドコロ／イネ科：クマザサ／ヒルガオ科：アオイゴケ

【木の花】コウヤマキ科：コウヤマキ／ブナ科：コナラ／モクレン科：コブシ／メギ科：ナンテン／バラ科：ソメイヨシノ／マメ科：ネムノキ／トウダイグサ科：アカメガシワ／ウルシ科：ヌルデ／ブドウ科：ツタ／ミズキ科：ヤマボウシ／ウコギ科：カナリーキツタ／エゴノキ科：エゴノキ

2026年7月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「葉っぱのハ・テ・ナ」でした。はじめに博物館内で葉っぱの役割や、特徴、言葉などの文化に関する話題をお話し、その後博物館周りの近くで葉っぱやそこで暮らす昆虫などを探して観察しました。最後は博物館に戻り、スタンプ台を使って葉を写し取り葉っぱ図鑑を作りました。



今月の案内人
伊東茂子・望月みずき



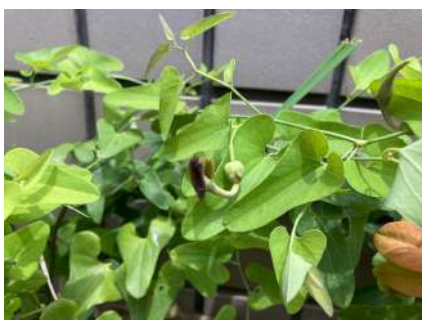
①ヌルデの葉の上にいるナナフシモドキ。



②小さな実をつけたナガエコミカンソウ。



③アオイゴケ。苔ではなく被子植物のなかま。



④ウマノスズクサの花。



歩いたルートと観察した生き物



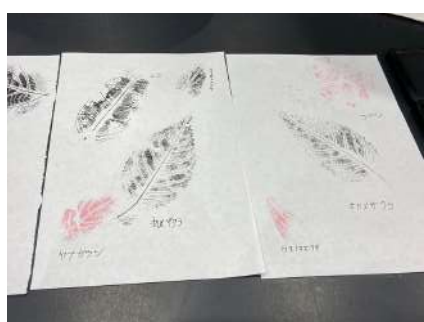
⑤日陰で休息中のアカボシゴマダラ。



⑥クズの昼寝。日差しが強い日は葉を畳んで光合成量を調整する。



⑦チュウゴクアミガサハゴロモの成虫。昨年から増加中の外来種。



⑧最後は室内でスタンプ台で葉を写しとって図鑑作り。

今月の鳥 ゴイサギ

ゴイサギは漢字で五位鷺と書きます。この名前は、平安時代の醍醐天皇にまつわる伝説に由来するとされています。[※]平家物語によると、醍醐天皇が池のほとりにいた一羽のサギを見つけて家来に捕らえるよう命じたところ、そのサギは逃げることなくおとなしく捕まりました。その落ち着いた態度に感心した天皇は、貴族の官位の一つである「五位」の位を授けたことから、五位鷺と呼ばれるようになったと伝えられています。また、ゴイサギの幼鳥は全身が褐色で、白い斑点が散りばめられた姿をしています。この星空のような模様から、幼鳥にはホシゴイという別名もあります。今回のてがたんでは、葉の観察だけでなく、鳥の名前の由来など「言葉」にまつわる話題にも触れ、自然のさまざまなつながりを楽しむことができました。

※図説日本鳥名由来辞典より



幼鳥のゴイサギ